

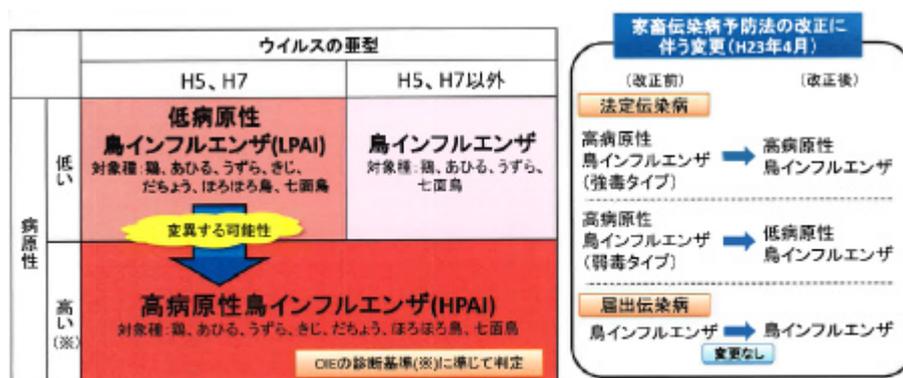
## 中国で鳥インフルエンザ発生 警戒強める

中国の広範囲において、H7N9型の鳥インフルエンザウイルスによるヒト感染が広がっている。4月22日現在、外務省海外安全ホームページによると、2市4省で103人が感染(内、20人死亡)となっており、拡大の一途を見せている。24日には台湾でも感染者が確認された。鳥インフルエンザウイルスが豚の体内に侵入して変異した場合、同じ哺乳類であるヒトへの感染となれば強毒性となり、症状が重篤化する。

外務省は、中国への渡航者に対して鳥を扱う市場や飼育場への立ち入りや、排泄物等を含み、むやみに鳥・豚に接触しない、手洗いとうがいに努める等、衛生管理を呼びかけている。また、突然の発熱や咳など、呼吸器感染症の症状が現れた場合には、速やかに最寄の医療機関を受診するよう注意喚起している。また、ヒトからヒトへの感染となれば事態は深刻化となる。国際獣疫事務局の発表によると中国政府は感染ルートの特定に努めているが、日本でも過去にH5N1型インフルエンザが発生した時には感染ルートは断定出来なかつただけに、厳しい対応となっている。隣国での出来事だけに我が国の畜産業も気が気ではない状況で、注意が必要だ。一日も早い沈静化を祈って止まない。

### 我が国における鳥インフルエンザの分類について

一般的に言われている鳥インフルエンザは、A型インフルエンザが引き起こす鳥類の疾病だ。我が国の家畜伝染病予防法では、病原性の程度と変異の可能性の有無によって高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)、低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)及び鳥インフルエンザに分類されている(右表索引:農水省より)。高・低病原性の判定基準は国際獣疫事務局が定める国際的な基準に合わせている。



※次に示すOIEの診断基準(高病原性鳥インフルエンザ)のいずれかを満たした場合に、病原性が高いと判定  
 ①6週齢鶏の肺臓内接種試験で病原性指標(IPPI)が1.2以上又は4-8週齢鶏の肺臓内接種試験で75%以上の致死率を示す。  
 ②H5又はH7重型のウイルスで、特定部位のアミノ酸配列が既知のHPAIウイルスと類似している。

## 輸入農産物の概況について

アベノミクスによる景気刺激策が市場で反応を見せている。株価は2008年8月以来、1万3千円台に回復しており、輸出関連企業が息を吹き返している。また、為替相場は1ドル100円台寸前で推移。急激な円安により日本の各国産メーカーは半年前と比較して、原材料費の仕入コストが2割以上高い状況となっており、値上げに踏み切ったものも少なくない。では、我々が普段から口にしている輸入農産物についてはどういう状況なのか、我が国における最近の輸入農産物の推移について調べた。

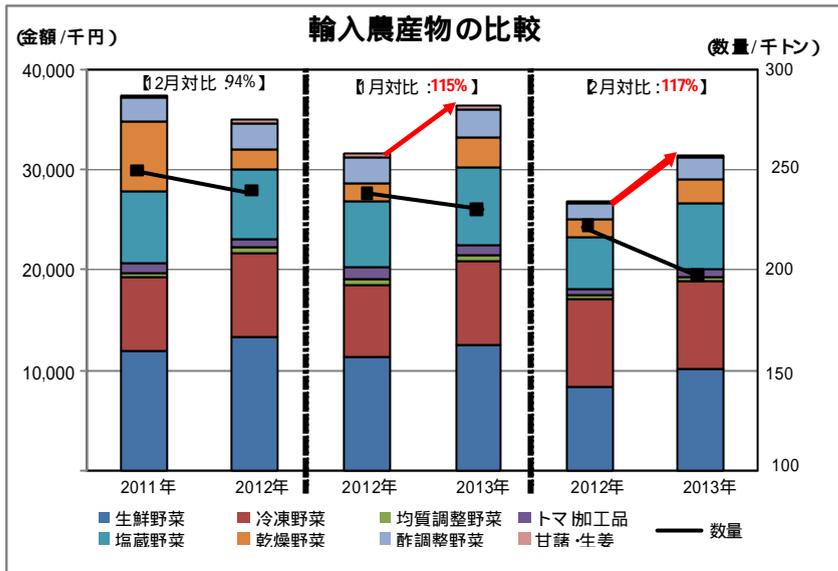
### 輸入量は減少 輸入金額は増加

日本国内では2012年12月～2013年2月は近年にない低温に見舞われ、露地野菜の出荷量が減少。レタス・ホウレンソウなどの葉モノが一時期平年作価格比較で2倍以上も価格高騰したのは記憶に新しい。一方で、一部のスーパーが輸入農産物をPR、消費者に対して価格応援をした事で話題となった。

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

安倍政権発足後の2012年12月から景気刺激策で為替が円安に振れた結果、輸入総金額(円価)は1月、2月と前年同時期比で15%以上増加した。しかし輸入数量だけに焦点をあてると、12月以降前年同時期比で5~10%の範囲で減少となった(ただし、2012年12月冷凍野菜を除く。理由:冷凍の豆類・ホウレンソウ輸入量が増加)。大手スーパー筋によると為替リスクを回避すべく、3ヶ月周期で輸入業者と交渉するケースが多く、5月までは略々購入価格を



決めているとのこと。しかし、今後の為替状況によっては輸入農産物が更に影響を受ける可能性は指摘されている。南関東以南の産地では一部に異常気象はあるものの3月以降に初夏を思わせる高温が続いたことで、国産の春野菜は概ね順調に生育が進んでいる。従って、輸入農産物動向もあり、国産野菜の取扱い拡大傾向はしばらく続き、国産野菜の消費拡大に繋がると期待される。



## 平成生まれの助っ人登場

駅伝同好会「MAC'S (マックス)」です。今年も恒例の駅伝大会をレポートします。

巷ではプロ野球やゴルフといったスポーツ界を始め、あらゆる業界で平成生まれの若者達が活躍しています。そんな中、MAC'Sにも初めて平成生まれの助っ人が登場しました。日本カーバイド工業㈱の中川さんで、平成元年生まれの24歳、学生時代はバスケット部に所属し、長距離走はお手の物。

今大会から4人の合計年齢により種目が分かれ、160~199歳の部/23kmに2チームがエントリーしました(平成生まれがいても160歳を超えてしまう...)

4月の土曜日、暑くも寒くもなく風もない清々しい晴天の下、1,037チームが一斉にスタート。結果は合計161歳チームが、覚醒した当社総務経理部/渡辺の驚走と、助っ人の円熟味を増した堅実な走りにより、チーム史上最高位!歴代2位の好タイムで232チーム中20位でゴール。合計170歳チームは中川さんを始め助っ人の好走も、主将が足を引っ張り153位でした。ベストテンには7分及びみせんでしたが、皆さんのおかげで無事完走出来ました。レース後は恒例の焼肉店でビールとマッコリで乾杯。小さな達成感に浸りながら、今日の走りの回想や、次会への意気込みなど、駅伝大会への熱い想いを肴に打ち上げた。(MAC'S主将 東京支店 高橋)



合計161歳チーム (左から 芳晃栄/若林氏、梶川氏、MC/高橋氏、MAC/渡辺)



合計170歳チーム (左から 日本カーバイド/中川氏、向井氏、MAC/高橋、MCFC/細矢氏)

例年になく早い時期に桜が満開になったと思ったら、先週末は冬の寒さに戻り、東北地方では満開の桜と雪見という、滅多に見られない光景となりました。大型連休も始まり、生活リズムが崩れがちになると、気温差から体調管理が難しい時期ですね。お気をつけください。 編集事務局: 南部、助川